2024年度事業報告

公益財団法人　味の素ファンデーション

THE AJINOMOTO FOUNDATION

© 2024 The Ajinomoto Foundation

アジェンダ

THE AJINOMOTO FOUNDATION

1. 基本方針
2. 事務局活動（トピックス）
3. 事業別レビュー
   （1）食の力による防災・復興支援事業
   （2）低所得国栄養改善事業
   （ガーナ栄養改善プロジェクト（GNIP））
   （3）食と栄養支援事業（AINプログラム）
   （4）ベトナム栄養制度創設プロジェクト（VINEP）

© 2024 The Ajinomoto Foundation

基本方針（ミッション・ビジョン・行動指針）

THE AJINOMOTO FOUNDATION

1. ミッション：

「食と栄養」関連事業を通じて、世界の国々や地域の発展およびそこで生きる人々の明るい未来の創造に貢献する

2. ビジョン

多様な組織連携による新しい価値創造の要となる

3. 行動指針：

① 常に公益のために、考え、行動する
② 現実を直視し、強い情熱と結果へのこだわりを持ち挑戦する
③ 人・歴史・文化を尊重し、寄り添いながらコミュニティの発展を後押しする
④ 社会からの信頼を得るため、常に環境適応し、進化し続ける
⑤ 事業で得た知見や学術評価の結果を社会に還元する

© 2024 The Ajinomoto Foundation

THE AJINOMOTO FOUNDATION

2024年度トピックス

1.　評議員・理事・監事　役員全員改選
5月の理事会（書面決議）評議員選定委員会（書面決議）、6月の評議員会・理事会を経て全役員の改選を実施。理事2名が交代、他は継続。

2. 定時評議員会・理事会運営
2024年6月に定時評議員会・理事会を開催。また5月、7月、2月に書面決議の理事会を計4回実施。

3. 被災地復興応援事業の公益認定変更申請完遂
2023年1月から開始した変更申請手続きにつき、8月8日付けで内閣総理大臣名での認定通知書を受領。新事業名は食の力による防災支援・復興支援事業。HP等の更新も11月末で完了。

4. 人事異動に伴う体制変更への対応(24/7～)
人事異動に伴う新規メンバーの底上げ支援として、月次会議や委員会への参加、一部業務の事務局による分担、日々フォロー実施。

© 2024 The Ajinomoto Foundation

THE AJINOMOTO FOUNDATION

2024年度トピックス

5. 年次合宿の開催（24/10/10-11）
TAF全員参加の合宿を実施。事業の生産性・戦略性向上のため、2024年度中間レビューと、2025年度事業計画検討の議論を行った（ロジックモデル活用）。初めての試みとして中村正和理事を招聘、「ロジックモデルに魂を入れる～健康政策からの教訓」と題したご講演を頂いた。

6. 生成AI勉強会（24/11）やSNS運営サポートの実施
事業支援の一環として11～12月にかけて実施。

7. ガーナへの支援の質向上（常時）
月次会議の常設化、出張、駐在者帰国時の全体会議設定を通じコミュニケーション強化、事務局の現場支援の質向上を図った。

8. 中長期視点での財団の在り方　検討会議開（25/1）
戦略、財源、人材の在り方につき全員参加での議論を実施。

© 2024 The Ajinomoto Foundation

食の力による防災・復興支援事業

THE AJINOMOTO FOUNDATION

1. 事業目的

(1) 地域の自助・互助力の向上：

1) 住民の心と体の健康リスクの低減、健康寿命の延伸
2) 地域の社会関係資本の増強、コミュニティの活性化
3) （被災地のみ）①②を通じた個人と地域におけるより良い復興の実現

(2) 共助・公助力の向上と、官民連携力の向上：

発災時、被災者への食と栄養支援が重要視され、復興までの長期視点で支援がされる。

- 自助：自分のことを自分ですることに加え、市場サービスの購入も含まれる。
- 互助：相互に支え合っているという意味で「共助」と共通点があるが、費用負担が制度的に裏付けられていない自発的なもの。
- 共助：介護保険などリスクを共有する仲間（被保険者）の負担であり、近隣住民同士の支え合いをいう。社会保障制度に含まれない。
- 公助：税による公の負担。

© 2024 The Ajinomoto Foundation

THE AJINOMOTO FOUNDATION

2024年度　事業名称変更手続き完了

新事業名

食の力による防災支援・復興支援事業

© 2024 The Ajinomoto Foundation

食の力による防災・復興支援事業

THE AJINOMOTO FOUNDATION

自助　互助　共助　公助

料理教室開催者向け研修会・講習会

どんなときも♪レシピ講習会

たべぷろ講演会・ワークショップ

年間110回以上実施（東北・能登半島）

東北・能登
料理教室運営支援

年間20回前後実施（全国）

全国
食と栄養領域啓発活動

© 2024 The Ajinomoto Foundation

THE AJINOMOTO FOUNDATION

2. 中長期事業戦略

(1) 食と栄養を通じた地域の自助力・互助力の向上

1)地域に根差し、食を手段として住民の支援活動を行う組織向けに、たべぷろも含むTAF保有のチエ・ノウハウ・モノの提供で、伴走型の継続した後方支援を継続

2)どんなときも♪レシピ集等のツールも活用し、フェーズフリーに備えの拡充を推進

(2) 食と栄養における共助・公助力の向上、官民連携力アップ推進

赤エプの実績とエビデンス、たべぷろの知見を活かした情報発信で、発災時の食と栄養支援について実行力のある組織を増やし、問題解決に資する仕組み作りを推進する

© 2024 The Ajinomoto Foundation

食の力による防災・復興支援事業

THE AJINOMOTO FOUNDATION

2024年度レビュー

1. 東北における動き

(1) 料理教室の自主開催

4-12月累計50回開催。TAFによる視察が自走者のモチベーション向上に繋がり、重要性を実感。調理器具の新規協賛案件は能登半島地震被災地の珠洲市（食改）を含めて2件。

(2) 地域の支援者支援活動

講習・研修・講習会4-12月累積89回実施。目標進捗率148%、年度着地見込　講演会7回＋研修会55回＋講習会55回＝計117回（対年度目標195%）

2. まとめようプロジェクト：学術機関による研究発表による社会への発信を積極的に実施し（日本健康教育学会等）HPでも情報を公開。

3. 食べる支援プロジェクト（たべぷろ）
(1) 手引きを活用した啓発活動4-12月累積　15回実施。目標進捗率75%。
(2) 能登半島地震被災地では、物資支援→地域コミュニティ再生支援を実施。

© 2024 The Ajinomoto Foundation

THE AJINOMOTO FOUNDATION

1. 事業目的

地元の食生活に適した栄養食品の研究・開発・製造・販売および栄養に関する知識の普及を通して、対象となる母子の栄養改善を実現し、公共の福祉に貢献する。

YEDENT Agro Group of Companies

GNIP：Ghana Nutrition Improvement Project

© 2024 The Ajinomoto Foundation

THE AJINOMOTO FOUNDATION

2. 中長期事業戦略

(1) 現地政府、学術機関との協力により現地の栄養問題分析、調査研究を行う。
(2) 上記により開発した製品について、現地政府機関と企業の官民連携によって受益者拡大を行う浸透モデルを構築する。
(3) 現地企業がサステナブルに継続できるICTを活用したバリューチェーン（生産、物流、販売、浸透活動）の構築を行う。
(4) 離乳児から子供向けへの製品適用範囲の拡大を行う。併せて他者連携でオープンイノベーションを推進。
(5) 事業強化・拡大のため、エビデンス構築、PR、ドナー資金獲得のサイクルを回す。

© 2024 The Ajinomoto Foundation

低所得国栄養改善事業（ガーナ栄養改善プロジェクト（GNIP））

THE AJINOMOTO FOUNDATION

2024年度レビュー

1. マーケティング戦略
(1) Product　「KOKO Plus®」
1) 貧血予防、2歳以上の子供向に適用範囲拡大検討。
2) プロダクトコピー・包装デザインの見直しを実施。
(2) Price
外部要因(CPI・為替・競合)とGP（グロスプロフィット）率を加味し、適切なタイミングでの値上げを随時実施。また、FY30自走化に向けたPL（プロフィット＆ロス）構造の見直し。
(3) Place：
1) 都市モデル：販売体制・ルートの見直し：販売管理システムを活用し営業マンのパフォーマン改善を更に推進。直販体制を最大活用し、インボイス数増加＝アクティブショップ数増加を目指す。
2) ルーラルモデル：委託先とのコミュニケーションを改善し、限られたリソースでのインパクト最大化を目指す。ルーラルエリア（特に北部）の新たな開拓方法を模索する。
(4) Promotion
1) GHS協働
看護師が継続的に「KOKO Plus®」を紹介する場となりうる「Food Demonstration(FD)」の機会を活用し、GHS協働の成功事例を確立、横展開していく。また、限られた人員でガーナ全土をマネジメントできるよう新KPIを設定し、SBCC（ソーシャルビヘイビアチェンジコミュニケーション）チームの態度変容を促す。
2) その他：現場(販売・GHS協働)と連動した各種マーケティング施策(メディア・SNS)を戦略的に実行する。

© 2024 The Ajinomoto Foundation

低所得国栄養改善事業（ガーナ栄養改善プロジェクト（GNIP））

THE AJINOMOTO FOUNDATION

2024年度レビュー

2. SCM（サプライチェーンマネジメント）戦略
委託先を含めた生販会議キックオフ。購買、生販計画の管理体制構築。
3. 生産戦略
(1)委託先の能力強化：トップ間交流、専属マネージャー配置及び能力強化の実施。
(2)基本活動徹底: 技術標準書、SOP（スタンダードオペレーショナルプロセデュア）作成、日報記録の運用遵守。５S推進。
(3)コストダウン、安定調達、COG（ｺｽﾄｵﾌﾞｸﾞｯｽﾞ）の安定に繋がる原料購買施策の実施：複数購買、国内調達の検討。通関時の不確定な税率への対策。委託先との共同調達。
(4)仕様改定時のルール作成:アセスメント体制の構築
(5)環境負荷削減
4. PR戦略
(1) ブランド向上:番組へのスポンサー実施（タレント発掘、小売店主向け番組への提供)。
「KOKO Plus®」摂取後の子供(現9歳)の探索・活用・タレント発掘。SNS広告実施。
(2) リスク対策:アドバイザー活用等によるGHS（ガーナヘルスサービス）連携の批判防止策の実施。類似品対策。
(3) 国外：受賞、ODA（オフィシャルディベロップメントアシスタンス）の好事例として採用、栄養サミット報告によるプレゼンス強化。

© 2024 The Ajinomoto Foundation

低所得国栄養改善事業（ガーナ栄養改善プロジェクト（GNIP））

THE AJINOMOTO FOUNDATION

2024年度レビュー

5. 組織戦略
(1) ESM（販売NGO）：NGO法人としてのガバナンス強化の為、定期的なガバナンスチェックを実施。
(2)Yedent（生産会社）：ケネディ・FPCによる委託先スタッフの育成。委託先としての基本活動強化。
(3) KPF（※：ガーナの財団）：1) 委託先内部監査の実施とバリューチェーン全体のKPI（キーパフォーマンスインディケーター）が明確な評価シートの作成。2) アドバイザー・コンサルタントの最大活用。3) AFN（ナイジェリア味の素）との人事交流によるアフリカ法人間の関係促進。4) 青年海外協力隊と一橋のインターン受入れによる新視点導入。
6. 中期戦略
(1) R&D、エビデンス構築：1) FDの効果検証。
2) 母親への栄養教育と「KOKO Plus®」購入経験の相関。3) 3者連携の成果報告。④適正な販売方法・連携先の検討
(2) ファンド獲得： 1) WFPとのファンド構築
2) 他ファンド獲得機会の獲得、3) ファンドレイジング・栄養サミットアドボカシーコンサルタントの雇用、4) GHS外との連携検討（例FAO（フード＆アグリカルチャルオーガニゼーション）、5) 農業省の女性活用部門との連携等）、6) UNDP（ユナイテッドネイションズディベロッププログラム）との契約締結後の取り組み開始

© 2024 The Ajinomoto Foundation
※KPF：KOKO Plus foundation

低所得国栄養改善事業（ガーナ栄養改善プロジェクト（GNIP））

THE AJINOMOTO FOUNDATION

For baby's

Brighter future

© 2024 The Ajinomoto Foundation

食と栄養支援事業（AINプログラム）

THE AJINOMOTO FOUNDATION

1. 事業目的

食・栄養・健康に課題を抱える地域の人々を対象に、課題解決に取り組む団体への資金助成・ノウハウ提供を行い、対象者の生活の質の向上を通じて、公益に貢献する。

2. 中長期事業戦略

(1) AIN事業の“運営プロセスの改善”
(2) 団体間や専門家を交えたナレッジやノウハウをシェアする“学びあいの場”の継続
(3) プラットフォームとなるべく、AIN事務局や委員の“運営基盤強化”
(4) 団体活動の成果等の“情報発信・産官学の連携”を試みる。

© 2024 The Ajinomoto Foundation

THE AJINOMOTO FOUNDATION

1. 団体支援の強化

(1)「学びあいの場」：委員の参加を推奨

① 事業計画ブラッシュアップ(24/03)
② ナレッジシェア会(24/06)
③ 完了報告会および公募説明会(24/08)
④ 定期面談・現地視察

(2) 運営の強化

① 応募要項の見直し：毎年のPDCAを回す
② 渡航リスク管理強化：委員の渡航も踏まえ適切なルールを設定
③ 新委員の選任:3人の新規外部委員を選任。
　多様な視点からの審査・助言が可能となった（24/04）。

(3) 過去の支援事業の調査開始・・・30周年に向けて

© 2024 The Ajinomoto Foundation

食と栄養支援事業（AINプログラム）

THE AJINOMOTO FOUNDATION

2024年度レビュー

1. AIN長期レビュー(1999-2024年度)
1999年より「食を通じた栄養改善をテーマ」として、団体の実践活動を助成することで、現地のサステナブルな仕組み作りを支援すると共に、専門家の委員による助言や現地視察を通じて、団体及び現地の状況に柔軟に対応し、団体の成果創出のために伴走を行ってきた。26ケ国以上の地域の受益者に貢献してきた実績と信頼をもつ他に類を見ないプログラムであり、2024年度には25年目を迎えた。

2. AIN年間レビュー(2023-2024年度)

1) 団体支援の強化
①「学びあいの場」：事業計画ブラッシュアップ(24/03) 24年度開始3団体の事業計画の課題修正・計画を具体化し団体と事務局の認識を一致。

②ナレッジシェア会(24/06)ファシリテート等を行い、支援中および卒業団体が繋がり、ナレッジ・ノウハウが共有された。

③ 完了報告会および公募説明会(24/08)
4団体の成果発表の見える化・整理を支援し、参加者から質問を受け、AIN公募の理解が深まった。

© 2024 The Ajinomoto Foundation

THE AJINOMOTO FOUNDATION

2024年度レビュー

④ 定期面談・現地視察
初めての試みとして委員同席で団体との進捗報告面談と、現地視察（1団体）を実施、正確な現状把握とタイムリーな課題の発見・助言が進められた。

2)運営の強化
① 応募要項の見直し　応募要項を委員と共に見直し、AINの求める事業が団体にとってより明確になった（24/04臨時委員会）。
② 渡航リスク管理強化　現地視察時にマラリア感染が発生したので、JICA/トラベルクリニック/委員/理事に意見聴取し、「海外渡航時の安全確認規程」を作成し、現地視察（24/02）に試行・確認することで安全管理を強化した（24/04）。
③ 新委員の選任　3人の新規外部委員を選任し、多様な視点からの審査・助言が可能となった（24/04）。

3) 30周年に向けて
過去の支援事業の調査25年にわたるAIN事業を振り返り、団体や事務局にとって、未来に向けより有意義な事業とするために、AINの30周年(2029)に向け記念企画の実施準備を開始した。

© 2024 The Ajinomoto Foundation

ベトナム栄養制度創設プロジェクト（VINEP）

THE AJINOMOTO FOUNDATION

1. 事業目的

国家戦略に基づき、栄養の正しい知識・行動を伝える栄養人材（管理栄養士など）が育成され、社会で活躍できるような場と制度が構築され、国民の健康状態が向上されるという目標達成を目指すベトナムの国家機関の運営を費用/ノウハウ面で支援する。

2. 中長期事業戦略（達成するためのスキーム）⇒今までのものを掲載

ベトナムの国家機関および日本の栄養専門家とコラボレートしながら、臨床栄養ではNSTのモデル病院を確立する。学校栄養では小学校で体系的な栄養教育体制を確立する。NINとともに共催するVINEPワークショップでは、各活動をベトナムの行政・病院・学校にPRし、栄養制度創設を働きかける。これらの活動を通じて、栄養士の配置が促進されること、将来的な国民の栄養リテラシーおよび栄養状態の向上を達成する。

VINEP：Vietnam Nutrition System Establishment Project

© 2024 The Ajinomoto Foundation

THE AJINOMOTO FOUNDATION

3. 2024年10月24日　ベトナム国立栄養研究所（NIN）公式訪問

ベトナム国立栄養研究所（NIN）でのミーティングを実施。倉島理事長よりVINEP終了の説明。
出席者：

Duong所長、NIN内部関係者＜ベトナム栄養研究所＞
南良社長、Van Trung役員＜ベトナム味の素社、AVN＞
倉島理事長、山崎専務理事＜味の素ファンデーション、TAF＞

2025年6月を持ってVINEPは終了するが、今後、ベトナム栄養研究所（NIN）のAJICOグループの窓口はベトナム味の素社に一本化することで合意。

倉島理事長(TAF)　Duong所長(NIN)　南良社長(AVN)

会議参加された皆さまとの記念撮影写真

© 2024 The Ajinomoto Foundation

THE AJINOMOTO FOUNDATION

4. 2024年度基本方針

(1)臨床栄養

23年度の活動で、E病院とKUHP（京都大学病院）の間で計画していたNST（ニュートリションサポートチーム）研修は、E病院の要望がVINEPの事業目的に合致しなかったため実施しない。同時に、HMU（ハノイ医大）卒業生8人がK病院の栄養管理の中心メンバーとして活躍しているというVINEPの成果が確認できた。将来、K病院が模範となり、そこに勤務する栄養士が臨床栄養のリーダーとなることが期待される。これまでのVINEPの成果により自立化の見込みが立ったので、臨床栄養領域の活動は終了する。

(2)学校栄養

1) 23年度の活動で、MOET（教育科学省）/MOH（保健省）/NIN（栄養研究所）の認可の下、AVN（ベトナム味の素）のSMP実施を確認できた。直接的な支援は不要と判断し、VINEPは学校給食領域の活動を行わない。
2) 学校における栄養教育の必要性を理解したMOET（教育科学省）/VNIES（教育科学院）が、体育のカリキュラムに日本式の栄養教育を入れる試みとしてSNP（スクールニュートリションプロジェクト）が実施された。SNPの結果に基づいて、学校栄養教育の重要性の理解を促進・拡大するためのエビデンス作りを支援する。
3) 栄養教育の指導書作成: 日本式の栄養教育を小学校に導入するSNP（VNIES<教育科学院>/UNP<新潟県立大学>）の取り組みを加速するため、初期段階限定の支援を検討。

(3)NINとの関係

VINEP活動について、2023年10月に棚卸のWorkshopを実施し、現場での成果も出始めていること、ベトナム行政側も独自の動きを開始していることから、2025年でNINとのSA（スポンサー契約）を終了する。

© 2024 The Ajinomoto Foundation

THE AJINOMOTO FOUNDATION

5. 2024年度状況

(1) 臨床栄養⇒継続フォロー中

武庫川女子大・幣教授と委託研究契約を締結(途上国へのNST(ニュートリションサポートチーム)導入・運営にあたっての必要条件の検討)

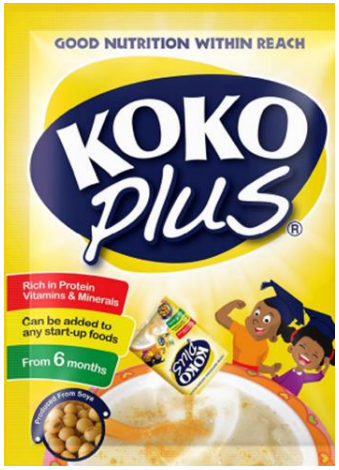
(2)学校栄養⇒継続フォロー中
1) SNP（スクールニュートリションプロジェクト）の論文化
2) 栄養教育の指導書作成
TAFの役割（共通認識を作るための場の設定と事業費提供）

(3)NIN（栄養研究所）との関係
TAFとNINを中心とした契約をいったん終了する。⇒契約は終了した。

※2024年度中にVINEPの今後のあり方決定のための検討を行う。⇒VINEPは終了

© 2024 The Ajinomoto Foundation

THE AJINOMOTO FOUNDATION



食べる支援プロジェクト

ain
The Ajinomoto Foundation

© 2024 The Ajinomoto Foundation